

法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催

第７０回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

**愛情を知った大人になる**

三重県・名張市立名張中学校・２年

（）

　家族団らんの晩ご飯中、何気にお父さんが話しかけてきました。

　「そういえばこの前、居酒屋で昔の同級生に会ったが、その変わりようがすごくて、びっくりしたよ！」と言ってきました。

　よく聞くと、その人は中学、高校と問題児にされていたようで、少し警察にもお世話になったこともあったみたいです。

　その人は子供の頃から家庭環境がすごく悪く、それが近所周りにもよく知られるぐらい有名だったようです。しかし、今はまったくそんなことはなく普通の社会人で、三人の子供さんがいる立派なお父さんになっていたとの事です。

　その人が更生出来た一つのきっかけは、伯父が優しく、自分の両親よりはるかに愛情をもって接してくれたようなのです。問題を起こした時も伯父が学校まで来て一緒に謝ってくれたり、自分に対して本気で叱ってくれた、出来なかった勉強も教えてくれた、将来の事で親身になって相談に乗ってくれたと感謝の気持ちを今でも忘れないと言っていたようです。

　問題を抱える人は、本人だけの問題だけではなく周りの環境にも多くの原因があり、また同じような人達も自然に集まってしまうようで、さらに悪い事に発展してしまいます。その人達から脱却できたのもその伯父のおかげだったようです。

　今は三人の子供に恵まれ、愛情たっぷり育てている、そして、最近まで自分は外見だけ大人で中身が無かったことを感じ、逆に中身が子供の大人に対して注意するようになった、さらに身近にいる不良と言われる学生に対して、本人しか分からない悩みがあるはず、それを親身になって聞いてあげられる大人になりたいと話していたようです。

　お父さんはそれを聞いてかなり感心していました。

　私は、もしその人に伯父の存在が無かったら、今はどのような大人になっていたのか、愛情をもって接してくれる人の存在がとても大事であるとそれを聞いて思うようになりました。

　これらの事を考えていると、昔のことを思い出しました。

　私がまだ小学生の頃、電車に乗っていた時、近くに座っていたおじさんの姿を見て驚きました。その人はヒゲを生やし、真っ黒なサングラスで金色のハンチング帽子、全身がキラキラした服装で先の尖った派手な靴を履いており、さらに手首と指にも高価な貴金属を沢山付けて、腕を組んで眠っていました。小学生の私でもすぐに怖い人と直感で分かりました。

　その時、そのおじさんの近くにいた三歳くらいの男の子が、わがままを言って急に大声で泣き出しました。電車の人混みによる窮屈さと不慣れな状態で、電車を降りたがっているようでした。しかし、その前にはあの怖い人が眠っているのです。私はドキドキしました。その人は泣き声でむくっと起きて、男の子を少しの間見ていました。子供はお構いなしに泣きじゃくって、お母さんがもう少しだからがまんしなさいと叱れば叱るほど泣き声が大きくなり周りの人に謝りながら困っていました。子供の泣き声が嫌で不愉快な感じで場所を変える人もいました。するとその怖いおじさんが、その子供の頭を急に優しく撫でて、「ボク、こんな電車の中で、長い間よく今まで我慢できたね、えらいね、男の子だからもう少し我慢できるかな？」とサングラス越しにでもわかるくらいニコッとした顔で言いました。その子はおじさんの声でピタッと泣き止み、お母さんにしがみ付きました。お母さんがお礼を言うと、そのおじさんは、「お母さん、子供には愛情いっぱいで育ててやってな、そうしないとオレみたいな大人になって後悔するで、わっはっは」とさらに笑顔で話しかけていました。そのおじさんに昔何があったかわかりません。でも後悔していることは間違いないのです。でも格好は別として、今は反省をして立派に生きている大人に見えました。私は、それを感じて怖いおじさんから、優しいおじさんに急に見方が変わりました。その時はおじさんの言った意味がよく分からなかったのですが、今思うとおじさんも色々な人からの愛情が欲しかったのだろうなと思いました。そしておじさんのように、誰でも優しい言葉をかけられる世の中が大切だと思いました。

　私は普段、何気なくもらっている家族や周りの人からの愛情を改めて感じ、感謝の気持ちがわいてきました。